

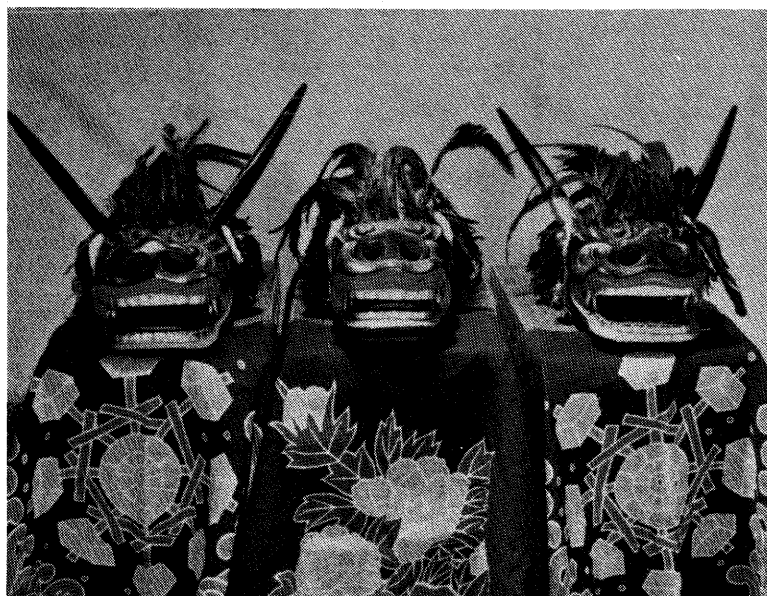
# 獅王あれこれ

郷土館だより  
第6号

五日市町立  
発行 五日市町郷土館 東京都西多摩郡五日市町五日市920-1 電話 0425-96-4069 有線4607

## 獅子舞の話

### 星竹嵐除け獅子舞の場合



地区	種類	月 日	奉納神社
養沢	一人立ち 三頭獅子	7 月 15 日	養沢神社
星竹	同	9 月第1 土曜	神明社
山田	同	9 月第1 日曜	八幡神社
高尾	同	同	高尾神社
五日市 入野	同	9 月28、29、30日	阿伎留神社
乙津	二人立ち 九一太神 楽獅子	9 月第1 日曜	神明社

写真 星竹の獅子頭  
嘉永元年塗替の記録がある  
右より男獅子、女獅子、大夫の順  
鹿踊りの影響をうけている

### はじめに

五日市町には多くの獅子舞がある。右表の六地区で古式にのっとり舞われている。獅子舞の起源は古く、中国渡来の“伎楽”に発し、正倉院御物の中にも、奈良時代の獅子頭が保存されているという。(西角井正夫氏『民俗芸能入門』)とにかく獅子舞は日本全国に分布していて、民俗芸能の中で最も数多く、最も古い歴史をもち、しかも古風をとどめているそうである。

獅子舞は形のうえから二つに分けられる。

“二人立ち”といって、一人が獅子頭を扱い、もう一人が尻尾の役をつとめる形のもの、 “一人立ち” といって、一人一頭形式のものがある。二人立ちは伎楽の伝統をひくが、一人立ちは起源も複雑で、関東地方を中心とす

る三頭一組の“三頭獅子舞”と、東北地方の主に八頭一組の“鹿踊り”があり、ふつう腰鼓をつけた太鼓踊りの形式をとっている。

五日市町についていえば、乙津地区は二人立ちで、これは太神楽というお神楽の獅子であり、その他の五地区はみな一人立ちの三頭獅子である。二人立ちの獅子頭はライオン型=唐獅子型であるが、三頭獅子は頭にトリバネをつけ、その形態も多様である。五日市入野地区の獅子頭についていえば、古い獅子頭(郷土館展示中)は唐獅子型であるが、現在使われているもの(文政年間作製)は龍型である。龍は唐獅子や麒麟などと同じく、空想上の動物であるが、水と緑が深く、獅子舞が雨乞い踊りで

あることと関連がある。利根川水系地区に龍型が多いところ星竹の獅子はこれまた趣が違い角が長く、鹿型に近い。東北地方では鹿や猪をズバリ形どったものもある。シカ、イノシシは大昔から民衆にとって愛憎深い動物で、狩猟時代の最良の護物であり、農耕時代の最悪の害獣であった。古語でシシとは肉を意味し、転じて鹿も猪もシシと呼ばれた。いずれにせよ一人立ちの獅子舞には大別して伎楽系と鹿踊り系と二つの流れがあり、その両者は互に影響しあっているようである。

前掲書によれば、三頭獅子は男獅子、女獅子、中獅子からなり、一般に男獅子は巻角、女獅子は宝珠、中獅子は直な角をもつという。五日市地方では中獅子は大夫と呼ばれ、頭に宝剣をもち（星竹の獅子は持たない）、男獅子の角も巻かずにストレートである。

五日市町の獅子舞をもつ各地区では、それぞれ有志が保存会をつくり、伝統の火を絶やさないようにつとめているが、一般住民の関心理解は必ずしも高くない。しかしこの所、伝統を見直す動きも顕著で、保存会の連合組織も結成された。そこで今回は戸倉にお住いの故老板本愛次さんをお尋ねし、星竹の獅子舞について伺うことにした。愛次さんは明治35年生れ、満82才であるが、今なおカクシヤクとして戸倉地区老人会々長もつとめておられる。愛次さんのお話を獅子舞鑑賞の手引としてご紹介しよう。

## (1) 獅子舞の構成

— 坂本さんは星竹の獅子舞について一番くわしい方と聞いて伺いました。いくつ頃からやってらっしゃるのですか。

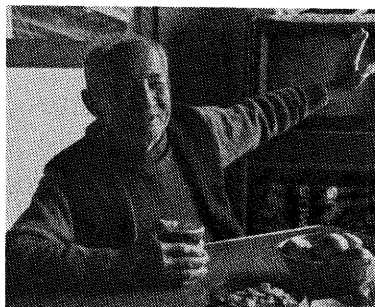
S 学校へ入るか入らないかの時分からだね。

— あまり小さいうちは踊らせてもらえないでしょう。

S いや、見たり聞いたりしているうちに門前の小僧で覚えますね。実際にやったのは小学校4年頃からかな。

— 獅子舞は何人位でやるのですか。

S シシ16といっていますが、もっと大勢でやる。定数は笛が2人、歌い手が2人、舞い手が3人、それに、ササラ（花笠をかぶり、手に竹製の一種の楽器をもち、舞庭の四隅に立つ女性）が4人、全



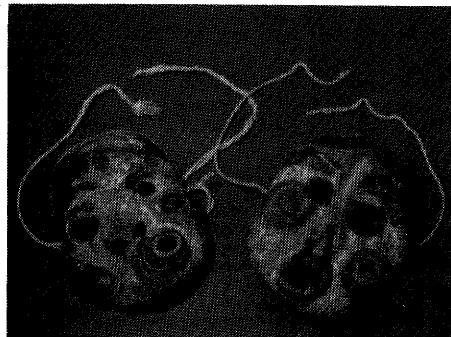
部で11人だが交代でやる。舞い手は交代がいなければやりきれない。

それからホーライというのが出る。大きな団扇をもっていて縄追いともいわれた。

— 面白いお面をかぶっている道化役ですね。

S これは道化ながら獅子舞を指導する大切な指導役です。

写真  
ホーライ  
の面



## (2) 獅子舞の起りと嵐除けの意味

— 獅子舞のルーツは。

S うーん、それがねえ。よくわからない。星竹のは檜原の下川乗から伝わったという話がある。昔、寺向うの田中雅夫さんのヒイおじいさんに当る人が下川乗で教わってきたという。そのヒイおじいさんに教わった人から、私は教わったんだがー。しかし考えてみると星竹の獅子頭は300年も前のものだし、道具箱には文化2年と書いてある。だから起りは江戸時代で、途中下川乗から教わったこともあるとみた方がよさそうだ。

— 目的は何ですか。

S 五穀豊穡、家内安全なんて万燈に書いてある。

— 星竹の獅子舞だけ特に嵐除けというのは、何かいわれがあるんですか。

S 嵐除けというのは悪魔っばらいだろうな。星竹の神明さまの祭禮日が昔は9月1日と2日で二百十日に当たっていたためだろうと思うよ。今は日曜祭りになったがね。

— 星竹の獅子は秋の祭りに舞うだけですか。

S うんそうだ。神明さまの春祭りが昔は2月21日、それから変って4月21日、今また変って日曜日となったが、その春祭りは囃子だけで獅子は出ない。獅子は昔は9月1日に戸倉の名主さまの庭で舞ったが、財産が狂っちゃうから止めてくんろといわれて、三島神社で舞い、2日に神明さまでやったもんだが、今は神明さまだけだね。

— 高尾地区では今でも個人の家を回りますね。

## (3) 獅子舞の曲目

— 星竹の獅子舞は何種類位あるのですか。

## 嵐除け獅子舞の歌

S 昔は12曲あったが、そのうち2つはわしらのやる前に絶え、今は10だね。

S 子供が習うのは「藤掛り」からだ、本番でやるときは「庭固め」からやる。舞う庭をまず固めるわけだ。—「藤掛り」というのは。

曲目の名称	所要時間
1 庭固め	20分
2 藤掛り	15分
3 三拍子	21分
4 すれ違い	26分
5 雌獅子隠し	36分
6 竿掛り	27分
7 まり掛り	32分
8 ふとん張り	23分(推定)
9 花掛り	32分(推定)
10 太刀掛り	20分

(4~9はその時の都合で順序が変わる)

S 昔は舞う真ん中へ藤を立て、それを眺めながら踊ったものだ。今は藤を立てないが、獅子はあるつもりで踊る。見事な藤の花をながめ、その廻りをぐるぐるとまわるわけだ。

—「三拍子」というのは。

S 「三拍子」というのは調子がいいですね。調子がいいから、その音楽に乗って舞う。

—「すれ違い」は。

S これは一番荒い獅子でね。若い人がやる。はげしく獅子と獅子とがゆき違う。

— 雄獅子、雌獅子の男女関係がゆき違うというんではないですね。

S うん、ただ踊りながらすれ違う。その前にまず花傘がすれちがいがながら通る。次に棒使いが6人出て、棒術のようなことをしながらすれ違う。獅子は花傘のときは花を喰いちぎるような仕草をするが、棒使いの通るときはおとなしく眺めている。

— 棒に恐れをなして……

S そうだ。棒がでるのは「すれ違い」だけであとはない。

— 刀がでることがありますね。

S 刀や槍をつかうのは獅子の始まる前とか終わったところだ。場所を清めるために入る。

— この太刀掛りというのがそうですね。

S これは最後にやる曲目で、これでおしまいということで太刀で清める。檜原あたりでは張ってあるおシメ(しめ縄)を切るそうだ。

— 真剣ですか。

S 以前は真剣を使った。やっぱり真剣でなくちゃ。今は警察が許可しないのでやめているがね。

—「雌獅子隠し」というのは一番中心の曲のようですね。

S これは雌獅子の奪いあいだ。大夫と雄獅子が喰い合

### ○入り端の歌

へ唐から下りだ 唐絵の屏風  
一重にサラリと 引き廻わさいな  
ひきやま(曳山)朝日よな

### ○水汲みの歌

へここはどこ ここは吉野の吉野の花の中  
花を散らして遊べ獅子ども  
この宿は縦が十五里横七里  
入り端よくみて出端に迷うな  
この宮に鷹が棲むげに鷹じゃない  
鈴の音 み神楽(みてぐら=幣?)の音

### ○三拍子の歌

へ俺のお瀬戸の姫小松  
一枝たぐめて腰休めろ  
海のとなかの浜千鳥  
波にゆられてバット立ち候  
三拍子のきりなれば  
今の調子を切り替えたよな

### ○ふとん張りの歌

へ春の初めに駒乗り初めて  
ふとん張りして 締め初めろ

### ○雌獅子隠しまたは三別れの歌

へ思いもかけぬ 朝霧が下りて  
そこで雌獅子がかくされたよな  
うれしさよ うれしさよ  
雌獅子雄獅子が かなたなわれた  
国から文が来たよとて  
読みて見たれば こいとなア書いた  
日が暮れる 道の千草(おぐさ)に露が下りる  
おいとま申して いざ帰えさりよか  
(星竹 網野蔵之助氏よりの聴取り)

いをする。激しくやりあって一方が倒れたりする。

— そこで医者がでてくるんですか。

S 医者はあるやあ後からつけ加えた余興だ。一番はじめに大夫が喰い殺され、次に雄獅子が喰い殺される。そして最後は仲直りして、そこで歌になる。「ウレシサヨウレシサヨ」というあれだ。

— 「雄獅子、雌獅子がかなたなわれた」というんですね。

S そう、文句がちよっと変だけれど「刀をおいた」ということかな。

— 「肩ならべた」という意味にもとれますね。

S そうともとれるな。とにかく仲直りした歌だ。

— 「日が暮れる道の千草に霧がおりる。おいとま申し  
ていざ帰えらりょうか。(帰えさりよか)」ハッピーエン  
ドですね。

S アハハ。

— “竿掛り”というのはどういうのですか。

S 物干竿のような竹の竿を横にして両方がかついでい  
る。一番さきに雌獅子が飛び込んで竿のむこうへゆく。そ  
れを太夫と雄獅子が探す。そして、次に雄獅子が飛び込む。  
太夫はしばらく雄獅子を探すが、やがて気付いて、雌獅  
子の方へゆく、そして今度は雄獅子が竿の外へ追い出さ  
れる。

— また。三角関係ですか。

S アハハ そうだ。

— “まり掛り”というの。

S これは獅子が鞠と遊ぶわけだ。竿から鞠をぶら下げ  
ておくと、獅子はさんざ眺めて、突いてみたり、廻りを  
ぐるぐるまわったりする。

— その鞠は蹴鞠のまりですか。

S いや、この位(両掌でかこう)の糸でかがった見事  
なまりだ。

— 刺しゅう糸でまいた。郷土玩具のようなきれいな鞠  
ですね。その鞠と遊ぶ。

S そう。鞠を食い落したりする場面もある。そして鞠を  
見失って探したりするふりもする。星竹の獅子では一番  
の愁歎ものだ。



写  
真  
花  
が  
か  
り  
の  
場  
面

— “花がかり”というの。

S これはササラが出て、それを獅子が眺める踊りだ。

— 花傘の花は何の花ですか。

S これは、秋のすすきと、春の牡丹だ。それと日天、  
月天。お天とうさまとお月さま。

— 最後に“ふとん張り”というの。歌に「春の初め  
に駒乗り初めて、ふとん張りして締め初めろ」とありま

すね。

S 「締めかわかれよ」とも歌う。

— ふとんというのは寝るときのフトン。

S そうだ。

— ふとんを張るというのは、ふとんを敷くということ  
ですか。

S そうでしょうね。

— 春の初めは生きものは子供を産むために巣につく…。  
するとこれが一番色っぽい曲ですね。

S アハハ、五穀豊穡だ。

## おわりに

獅子舞はもとは夏にやったという。雨乞い踊りならさ  
もあろう。しかし夏はまだまだ農繁期であり、養蚕も忙  
しい。ようやく旧盆過ぎてからいくらかの余暇を得て秋  
祭りの練習がはじまる。獅子舞もいつしか秋に移って、  
お囃子や神楽と一緒に秋祭りを彩る行事になった。

昔の人々は大地に根づいて暮した。その暮しのリズム  
の中から祭りは生れた。それは単なるレクリエーション  
ではない。短調で厳しい日常の労働生活を破る代償の行  
為であり、神や精霊を呼び起し、それと交りながら心と  
からだを開放させるハレの行事である。獅子が大地を蹴  
って踊るとき、そこに生命の躍動があった。坂本愛次さ  
んが少年期に魅せられたのはこれであろう。いまは生活  
の基盤が変り、神への意識もさめたので、伝統の民俗芸  
能が衰弱し形骸化したのはやむを得ない次第である。し  
かし伝統は貴重な財産であり、われわれがこの伝統を理  
解し大切にすることは、われわれの現在をより豊かにし  
てくれる筈である。最後に五日市町で現在行なわれてい  
る囃子を表記した。

## 五日市町内のお囃子一覧

地 区	種 類	月 日	奉 納 神 社
落 合	神田 囃子	4 月 第 1 日 曜	春日、大鳥、八幡神社
小 中 野	神田 囃子	4 月 15 日	子生神社
		9 月 15 日	大鳥神社
戸 倉 本 部	神田 囃子	4 月 19 日	三島神社
		9 月 28 日	同
星 竹	神田 囃子	4 月 第 4 日 曜	神 明 社
		9 月 第 1 土 曜	同
留 原	神田 囃子	8 月 最 終 日 曜	八 坂 神 社
伊奈(宮本)	重松 囃子	9 月 15 日	岩走神社
上 宿	重松 囃子	9 月 15 日	同
新 宿	重松 囃子	9 月 15 日	同
栄 町	神田 囃子	9月28、29、30日	阿伎留神社
上 町	神田 囃子	9月28、29、30日	同